

2024年（令和六年）

9月27日（金曜日）

毎週（金）14:00発行

発行所 （一財）日本エネルギー経済研究所
石油情報センター電話（03）3534-7411（代）
FAX（03）3534-7422〒104-8581 東京都中央区勝どき1-13-1イヌビル・カドキ10階
ホームページ <https://oil-info.iej.or.jp>

■ 概況

当週（9月19日～25日）の国際石油市場は、18日の米国利上げを好感し堅調に始まったが、中国の経済対策への見方、メキシコ湾のハリケーン「ヘレナ」の進路、国連によるリビア東西両政府の合意発表等の要因で、不安定な動きを示し、25日には軟化した。

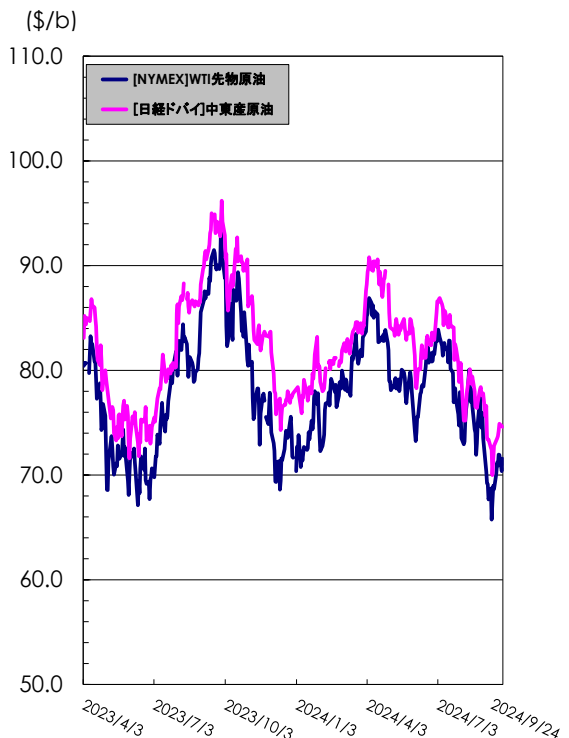
NYのWTI原油先物市場は、19日、反発の71.95ドルで始まり、20日、23日と続落し、24日は反発したが、25日には反落の69.69ドルと70ドル割れで終わった。

また、中東産ドバイ原油/東京市場（11月渡し）も、前週（9月12日～18日）は71.50～73.70ドルの範囲で推移したが、当週は、9月19日74.20ドル、20日74.90ドル、24日74.60ドル、25日74.80ドル。

対ドル為替レート（TTM）は前週（9月12日～18日）140.77～142.85円の範囲で推移したが、当週は、9月19日143.64円、20日142.76円、24日143.74円、25日143.33円となった。

そのような中で、9月24日時点の国内製品小売価格は、ガソリンが前週比0.1円の値上がり、軽油も0.1円の値上がり、灯油は同1円の値上がり（18リットルベース）、ガソリンの全国平均価格は174.7円となった。9月26日～10月2日の燃料油価格激変緩和補助金の支給額は11.6円（補助金がない場合の次週予想価格186.4円で、168円から185円の補助率60%支給部分10.2円、185円を超える補助率100%支給部分は1.4円）と、2週ぶりに2ケタの補助金支給となった。

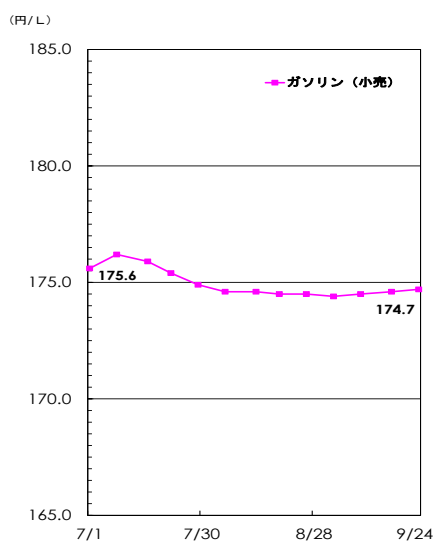
原油		今週	前週比	前年比
需給	原油処理量 (千kl)	9/15 ~ 9/21	2,610 ▼ -67	▼ -
	トッパー稼働率 (%)	"	75.5 ▼ -1.8	▲ -
	原油在庫量 (千kl)	9/21	11,479 ▲ 266	▲ -
価格	中東産原油(日経ドバイ) (\$/bbl)	9/24	74.60 ▲ 1.10	▼ -19.2
	WTI先物原油(NYMEX) (\$/bbl)	9/23	70.37 ▲ 0.28	▼ -19.3
	原油CIF単価 (\$/bbl)	8月下旬	86.74 ▼ -0.21	▲ 4.58
	①原油CIF単価 (¥/kl)	"	80,185 ▼ -1,855	▲ 6,616
	②ドル換算レート (¥/\$)	"	146.97 ▲ 3.06	▼ -4.61
	外国為替TTSレート (¥/\$)	9/24	144.74 ▼ -2.97	▲ 4.76



(単位: 千kl、円/%)

ガソリン		今週	前週比	前年比
需給	生産	9/15 ~ 9/21	772 ▼ -36	▼ -
	輸入	"	n.a.	n.a.
	出荷	"	697 ▼ -16	▼ -
	輸出	"	82 ▲ 81	▼ -
	在庫	9/21	1,581 ▼ -7	▲ -
価格	先物 [期近物/終値]	(TOCOM/東京湾) 9/17 ~ 9/23	81.0 ➡ 0.0	▼ -9.0
		(TOCOM/中部) 9/20	81.0 ▲ 1.0	▲ 2.5
	小売 [週動向]	(資工庁公表) 9/24	174.7 ▲ 0.1	▼ -5.8

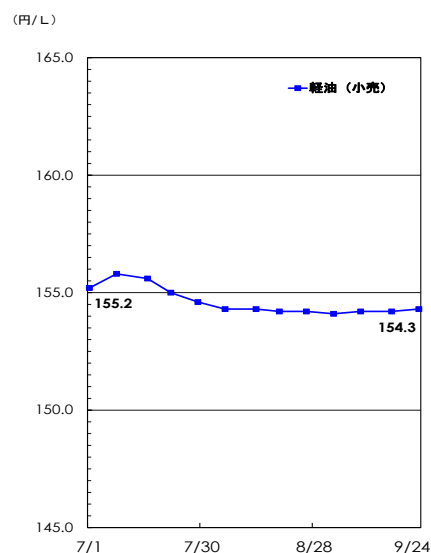
※業転、先物価格は税抜き価格



(単位: 千kl、円/%)

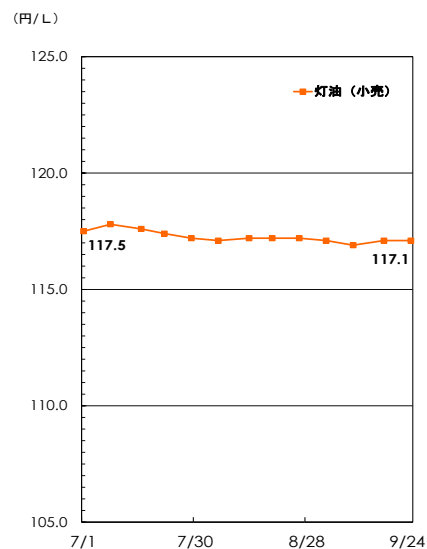
軽油		今週	前週比	前年比
需給	生産	9/15 ~ 9/21	639 ▼ -80	▼ -
	輸入	"	n.a.	n.a.
	出荷	"	552 ▼ -82	▲ -
	輸出	"	95 ▼ -17	▼ -
	在庫	9/21	1,446 ▼ -8	▲ -
価格	先物 [期近物/終値]	(TOCOM/東京湾) 9/17 ~ 9/23	82.2 ▲ 0.6	▼ -2.9
		(TOCOM/中部) 9/20	-	-
	小売 [週動向]	(資工庁公表) 9/24	154.3 ▲ 0.1	▼ -5.8

※業転、先物価格は税抜き価格



(単位: 千kl、円/%)

灯油		今週	前週比	前年比
需給	生産	9/15 ~ 9/21	117 ▼ -23	▼ -
	輸入	"	n.a.	n.a.
	出荷	"	98 ▲ 167	▲ -
	輸出	"	44 ▲ 39	▼ -
	在庫	9/21	2,293 ▼ -24	▼ -
価格	先物 [期近物/終値]	(TOCOM/東京湾) 9/17 ~ 9/23	80.3 ▲ 0.3	▼ -8.9
		(TOCOM/中部) 9/20	80.5 ▲ 0.5	▲ 2.5
	小売 [週動向]	(資工庁公表) 9/24	117.1 ➡ 0.0	▼ -4.4



■ 関連情報

1 海外/原油 (WTI原油先物市場)

前週(9/12~9/18)のNYMEX・WTI先物市場は68.65~71.19ドルの範囲で推移した。

当週、9月19日は、前日、連邦準備制度理事会(FRB)の大幅利上げ(0.5%)を好感した買い、また、イスラエルによるレバノンの親イラン武装組織「ヒズボラ」への本格的攻撃に伴う、中東情勢の緊迫化で、反発した。10月物終値は前日比1.04ドル高の71.95ドル。

週末20日は、前日に続き、買いが優勢で始まったが、10月物の納会日に伴う売りが高まり、わずかに反落した。10月物終値は同0.03ドル安の71.92ドル。

週明け23日は、ユーロ圏・米国ともに、9月の製造業景況が前月比較化、米英の景気先行きに対する警戒感から、続落した。持ち高調整・利益確定の売りもあった模様。ただ、イスラエルのヒズボラへの攻撃激化は下値を支えた。この日から中心限月となった11月物終値は同0.63ドル安の70.37ドル。

24日は、中国当局が追加の金融緩和・不動産支援を発表したことに伴う中国経済の回復期待、イスラエルによるヒズボラ空爆実施、ハリケーンに発達する見通しの熱帯低気圧「ヘレナ」のメキシコ湾接近で、反発した。11月物終値は同1.19ドル高の71.56ドル。

25日は、前日の中国の経済対策・景気刺激策が不十分・期待外れとの評価が広がり、また、国連が内戦中のリビアの東西両政府が和解に達したと発表したこと、さらに、ハリケーン「ヘレナ」が石油施設集中地域を避けフロリダ方向に向かったことで、供給不安が後退、反落し、70ドル台を割った。ただ、この日発表の米国石油在庫は、原油・石油製品とも市場予想を上回る取り崩しで、下値を支えた。11月物終値は同1.87ドル安の69.69ドル。

2 海外/米国石油市場

9月25日発表の9月20日時点の米国エネルギー情報局(EIA)の米国国内週間在庫統計は、原油在庫が前週比450万バレル減と、市場予想(140万バレル減)、ガソリン在庫も150万バレル減(市場予想:2万バレル減)、中間留分在庫は220万バレル減(同160万バレル減と、予想を上回る取り崩しで、堅調な需要動向を示した。

EIAによると9月23日時点で、ガソリンの小売価格は、前週比0.5セント高の1ガロン3.185ドル(120.8円/ℓ)と8週ぶりの値上がりで、ディーゼル小売価格は、前週比1.3セント高の1ガロン3.539ドル(134.2円/ℓ)と11週ぶりの値上がり。

ベーカーヒューズ社によると、9月20日時点で、米国内の稼働陸上石油掘削装置は、前週比横ばいの488基となった。

3 国内/製品出荷量

石連週報によれば、2024年9月15日~9月21日に休止したトッパー能力は42.8万バレル/日で、前週に対して5.8万バレル/日減少した(全処理能力は310.6万バレル/日)。

原油処理量は261.0万klと、前週に比べ6.7万kl減少。前年に対しては14.0万klの減少。トッパー稼働率は75.5%と前週に対して1.8ポイントの減少、前年に対しては1.3ポイントの増加となった。

生産は前週に比べてジェットが増産となり、その他の油種で減産となった。ガソリン/4.5%減、ジェット/5.8%増、灯油/16.7%減、軽油/11.1%減、A重油/5.5%減、C重油/35.7%減。今週のC重油の輸入は0.0万kl(前週比横ばい)。軽油の輸出は9.5万kl(前週比1.7万kl減)。

出荷(輸入分を除く)は前週に比べてジェット、C重油が増加し、その他の油種で減少した。前年比ではガソリンが減少し、その他の油種で増加した。ガソリンの出荷は69.7万kl(対前週2.3%減)と2週振りに減少した。ジェット9.1万kl(対前週75.8%増)、灯油9.8万kl(対前週241.6%減)、軽油55.2万kl(対前週13.0%減)、A重油15.4万kl(対前週9.9%減)、C重油15.8万kl(対前週4.0%増)。

(単位:千L)

	今週 (9/15 ~ 9/21)	前週 (9/8 ~ 9/14)	前週比
ガソリン	697	713	▼ -16 (-2%)
ジェット燃料	91	52	▲ 39 (75%)
灯油	98	-69	▲ 167 (-242%)
軽油	552	634	▼ -82 (-13%)
A重油	154	171	▼ -17 (-10%)
C重油	158	152	▲ 6 (4%)
合計	1,750	1,653	▲ 97 (6%)

※今週出荷量 = (前週末在庫 + 今週生産 + 今週輸入) - (今週輸出 + 今週末在庫)

4 国内/製品在庫量

9月21日時点の在庫は、ジェット、A重油が積み増しとなり、その他の油種で取り崩しとなった。前年に対してはガソリン、ジェット、軽油が増加し、その他の油種で減少した。

ガソリンは158.1万kl、前週差0.7万kl減。前年に対しては3.1万kl多い。

灯油は229.3万kl、前週差2.4万kl減。前年に対しては41.5万kl少ない。

軽油は144.6万kl、前週差0.8万kl減。前年に対しては7.1万kl多い。

A重油は69.1万kl、前週差2.3万kl増。前年に対しては10.3万kl少ない。

C重油は169.4万kl、前週差1.8万kl減。前年に対しては37.7万kl少ない。

(単位：千KL)

	今週 (9/21)	前週 (9/14)	前週比	
ガソリン	1,581	1,588	▼ -7	(-0%)
ジェット燃料	883	855	▲ 28	(3%)
灯油	2,293	2,317	▼ -24	(-1%)
軽油	1,446	1,454	▼ -8	(-1%)
A重油	691	668	▲ 23	(3%)
C重油	1,694	1,712	▼ -18	(-1%)
合計	8,588	8,594	▼ -6	(-0.1%)

5 国内/元売会社製品卸価格

9月17日～23日のドル建て中東原油価格は値上がりし、為替レートはわずかに円高であったものの、円建て輸入原油価格は値上がりし、元売会社の卸建値は値上がりしたものと見られる。補助金は増額されたが、9/26～10/2の実質卸価格はわずかに値上がりとなる模様。

6 国内/製品小売価格

9月24日時点のSS店頭価格は、ガソリンが前週比0.1円高の174.7円、軽油も同0.1円高の154.3円、灯油は18%ベースで同1円高の2,108円(1%ベースでは同横ばいの117.1円)。ガソリンは3週連続の値上がり、軽油は2週ぶりの値上がり、灯油は2週連続の値上がりだった。ガソリンについて、都道府県別には、値上がり19都県、横ばいは10道県、値下がり18府県だった。全国最安値は愛知県の168.2円、その次は岩手県の168.4円であった。他方、最高値は長野県の183.9円。最も値上がりしたのは鹿児島県と東京都(同0.8円高)、最も値下がりしたのは愛知県(同0.9円安)だった。

次回調査時(9/30)のガソリンの小売価格は、小幅な値上がりが予想される。

(単位：円/%)

(資工庁公表) [週動向]	今週 (9/24)	前週 (9/17)	前週比	直近高値
レギュラー	174.7	174.6	▲ 0.1	23/9/4 186.5
灯油	117.1	117.1	▶ 0.0	08/8/11 132.1
軽油	154.3	154.2	▲ 0.1	08/8/4 167.4

※ 現金一般価格の全国平均値(消費税込み)

07年4月以降 2,000店舗を対象。

直近高値とは2004年6月以降の最高値。

■ お知らせ

本レポートは当センターのホームページ (<https://oil-info.iej.or.jp>) に掲載しています。
次回 (2024第25号) の公表は、10/4 (金) 14:00 です。

本レポートのご利用について

本レポートについて、テキスト、グラフィックス及びその他の情報 (以下、併せて「ドキュメント」) に関するすべての知的所有権は、一般財団法人日本エネルギー経済研究所石油情報センター (以下、当センター) 又は当センターヘドキュメントを提供している第三者へ独占的に帰属します。

当センターの事前の書面による承諾を得ることなく、ドキュメントを転用、複製、改変等の一切を固く禁じています。

また、ドキュメント内容に関しては万全を期していますが、その内容の正確性および安全性を保証するものではありません。

「ウィークリー オイル マーケット レビュー」とは

当センターでは、平成16年5月に経済産業省資源エネルギー庁資源・燃料部石油流通課主催の「石油製品市場動向研究会」が取りまとめた中間報告を受けて、石油連盟、全国石油商業組合連合会をはじめ関係機関等の協力のもと、石油関係者、企業の経営者の方々から一般消費者の方々まで、原油・石油製品需給や価格動向を的確に理解するツールの一つとして、「ウィークリーオイルマーケットレビュー」を平成17年5月より定期的に発信しています。

本レポート掲載データの出所について

①【原油・石油製品需給】〈石連週報〉

石油連盟 (石連) 「原油・石油製品供給統計」週報データを千KL単位に換算して採用。

「出荷」は当センターの推計。

②【原油価格】〈WTI先物原油、中東産原油〉

WTI原油は、ニューヨーク商業取引所 (New York Mercantile Exchange : NYMEX) WTI原油先物の期近物・終値を採用。

中東産原油は、日本経済新聞掲載の東京スポット市場 (取引の中心限月) の午後の中値を採用。※一般に、中東産原油は、ドバイ原油及びオマーン原油の平均価格が指標とされる。

為替換算レートとして、三菱UFJ銀行発表TTM

(Telegraphic Transfer Middle rate : 中値) を採用。
原油CIF単価は、財務省貿易統計「原油・粗油平均CIF単価」(旬間値) を基に、石油連盟が試算したドル表示の参考値を採用。

③【国内製品・元売仕切価格】

元売仕切価格は、元売会社 (一次卸) と系列特約店など (二次卸) との間で売買される卸価格。

④【国内製品・小売価格】〈週動向調査〉

約2,000 SSを対象に週次ベースのSS店頭における店頭現金価格の全国平均値を採用 (資工庁公表)。原則として、毎週 (月) 時点の価格を調査し (水) 14:00に公表 (資源エネルギー庁HPに掲載)。